

第11回 大腸癌マネジメントセミナー

日時：2017年11月16日（木）19:00～20:30

会場：萃香園ホテル 3階「松林の間」

久留米市榎原町87 TEL：0942-35-5351

【一般講演】 〈19:00～19:30〉

テーマ：がん治療における就労支援

司会 済生会日田病院 外科部長 尾崎 邦博 先生

講演① 「就労支援 ～看護の立場から～」

古賀病院21 外来化学療法室 主任 一瀬 理加 先生

講演② 「がん患者を支える薬剤師の役割」

公立八女総合病院 がん薬物療法認定薬剤師 岩永 陽子 先生

講演③ 「がん相談支援センターにおける就労支援の現状」

大牟田市立病院 地域医療連携室／がん相談支援センター

主査 MSW 北嶋 晴彦 先生

【特別講演】 〈19:30～20:30〉

司会 古賀病院21 消化器外科部長 池添 清彦 先生

『大腸癌治療におけるマネージメントの重要性』

演者 長崎大学病院 腫瘍外科 助教

野中 隆 先生

主催 中外製薬株式会社

*当日は情報交換の場を準備しております。

がん相談支援センターにおける就労支援の現状



2017年11月16日(木)

地方独立行政法人大牟田市立病院
がん専門相談員 医療ソーシャルワーカー
北嶋晴彦 haruhiko-k@pop21.odn.ne.jp

ご存じですか？

公益社団法人ACジャパン
「ながら勤務」支援キャンペーン



支援団体: 日本対がん協会

平成29年～平成34年(6年) 第3期がん対策推進基本計画(概要) 平成29年10月24日 厚労省健康局長通知

第1 全体目標

「がん患者を含めた国民が、がんを知り、がんの克服を目指す。」

①科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実 ②患者本位のがん医療の実現 ③尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築

第2 分野別施策

1 がん予防	2 がん医療の充実	3 がんとの共生
(1)がんの1次予防(※) (2)がんの早期発見、がん検診(2次予防) (※)受動喫煙に関する目標値等については、受動喫煙対策に係る法案を踏まえて別途協議決定する予定。	(1)がんゲノム医療 (2)がんの手術療法、放射線療法、薬物療法、免疫療法 (3)チーム医療 (4)がんのリハビリテーション (5)支持療法 (6)希少がん、難治性がん(それぞれのがんの特性に応じた対策) (7)小児がん、AYA(※)世代のがん、高齢者のがん(※)Adolescent and Young Adult: 思春期と若年成人 (8)病理診断 (9)がん登録 (10)医薬品・医療機器の早期開発・承認等に向けた取組	(1)がんと診断された時からの緩和ケア (2)相談支援、情報提供 (3)社会連携に基づくがん対策・がん患者支援 (4)がん患者等の就労を含めた社会的な問題 (5)ライフステージに応じたがん対策
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">就労は社会的問題</div>		
4. これを支える基盤の整備 (1)がん研究 (2)人材育成 (3)がん教育、普及啓発		

第3 がん対策を総合的かつ計画的に推進するために必要な事項

- 関係者等の連携協力の更なる強化
- 都道府県による計画の策定
- がん患者を含めた国民の努力
- 患者団体等との協力
- 必要な財政措置の実施と予算の効率化・重点化
- 目標の達成状況の把握
- 基本計画の見直し

福岡県がん診療連携拠点病院 体制

- ☆九州大学病院
- ☆九州がんセンター
- ◎済生会福岡総合病院
- ◎九州医療センター
- ◎福岡大学病院
- ◎福岡東医療センター
- 福岡大学筑紫病院
- ◇浜の町病院

全19カ所

☆県拠点 2 ◎地域拠点 13
○地域がん診療 2 ◇県指定 2



がん拠点病院には「がん相談支援センター」が設置されている

がん患者の就労に関する現状と課題

- ✓ がんは「不治の病」から「長く付き合う病気」へ
→ 62.1%が診断されてから5年以上生存
- ✓ がんは働く世代の問題でもある
→ 患者のうち約3人に1人は20～64歳
- ✓ 現在推計32.5万人が仕事をしながら治療している
- ✓ 患者にとって仕事は生きがいでもある。
→ 92.5%が病気を抱えながらも仕事を続けたい
- ✓ 事業者にもメリットがある → 働く人の確保



(参考)厚生労働省 労働者健康安全機構
「両立支援」パンフレットより

治療と職業生活の両立支援は社会的な問題
(サバイバーシップ支援)

診断後、就労に関して実際に困ったこと？

- ✓ 仕事を続けてよいのか、続けられるのか悩みました
- ✓ 周囲の理解が得られない。相談相手がいない
- ✓ 採用面接のときに、病気の事を伝えるか迷った
- ✓ 病院では仕事のことは相談できないと思っていた
- ✓ がんになったら治療に専念しなければならず、仕事は続けられないと思った
- ✓ 「今までと同じようにはいかないでしょう」と主治医から言われて仕事を辞めた
- ✓ 体調が悪いときに代わる人がいない
- ✓ 病気のために仕事を休むのが周りに申し訳ない
- ✓ 有給休暇を使い果たし、必要な時に休めない
- ✓ ほか

参 考: 福岡がんピアサポート講座 第10回(最終回)
がん患者と相談者のための就労セミナー「がん治療と仕事を両立させる」アンケート結果より(一部) 2013年10月5日

治療と仕事の両立のために実際やっていた工夫は？

- ✓ 家族の理解と協力を得る
- ✓ 治療に対して具体的に(仕事の)スケジュールを伝えできるだけ欠勤のないようにした
- ✓ 勤務時間を職場に相談した
- ✓ 会社や職場の仲間へ病気の事をオープンにして理解をもらった
- ✓ 入院中にパソコンを使って仕事ができるようになった
- ✓ 放射線治療を朝早い時間にしてもらったので、時差出勤で仕事を続けることができた
- ✓ 午前中に抗がん剤をして午後から勤務ができた
- ✓ 平日に通院ができるように土日に働いて代休をもらった
- ✓ ほか

参 考: 福岡がんピアサポート講座 第10回(最終回)
がん患者と相談者のための就労セミナー「がん治療と仕事を両立させる」アンケート結果より(一部) 2013年10月5日

福岡県の就労支援(一部)

ハローワークとの連携

通院・入院中の患者さんで
長期療養しながら、働きたいという方へ
～ハローワーク福岡中央による出張就職支援のご案内～

- ◆通院の必要はあるが、働きたい。
- ◆自分の病状、体力にあった仕事を見つめたい。
- ◆治療と仕事の両立の仕方について教えてほしい。
- ◆しばらくお休みして仕事に復帰することへの不安を解消したい。
- ◆就職活動で、企業に病気の事を伝えるべきか迷っている。
- ◆仕事復帰に際して、どんなスキルが必要か知りたい。

こんな悩み・不安の解消をサポートします。

ハローワーク福岡中央では、専門の就職支援担当者「就職支援サテーター」を派遣。マンツーマンであなたの就職を支援します。能力や適性、病状、治療状況などを考慮しながら就職支援を行います。

- 病状、通院状況に配慮した求人を探します。
- 仕事復帰の不安解消のための相談に応じます。
- 応募書類の作成や面接の受け方についてアドバイスします。
- 就業訓練や就職支援セミナーなどを紹介します。

ハローワーク福岡中央の就職支援サテーターが皆さまの相談に応じます。ぜひ、ご利用ください。

- がん患者さんが対象です。
- 相談は無料です。
- プライバシーは保護します。

九州がんセンター 福岡労働局 ハローワーク福岡中央

社会保険労務士との連携

社会保険労務士による、がん患者さん、その家族のための
がん就労相談

がんの治療と仕事の両立で困っていることはありませんか？

「がんを診断されたら仕事を辞めたいけれど、どうしたらいいの？」
「治療と仕事の両立はできるだろうか？」
「会社はいつ、どう伝えたらいいのだろうか？」
「専業主婦の収入が減ってしまったり、家族を助けるお金はありますか？」
「傷病手当金の申請の仕方は？」
「がんでも障害年金はもらえるの？」

社会保険労務士が就労相談・出前講座をします！
・治療と仕事の両立に関する悩みを、法や制度の観点から相談に対応します。
・また、県内のがん相談支援センターに出向き、出張相談をします。
・事業所に対して、「治療と仕事の両立のため」の出前講座をします。

【相談】
日時：月曜日から金曜日までの10時から16時まで
対象：がん患者さん、その家族など相談を希望する方
ご予約・お問い合わせ先
県立病院機構九州がんセンター
(がん相談支援センター 就労相談専用窓口)
092-511-2770
お気軽にご相談ください。

※当相談では、就職先の紹介は行っていませんので、ご了承ください。
福岡県保健医療介護部がん相談医療対策課

働く本人(患者)に期待されること

1. 治療計画と病状をしっかりと理解する
2. 副作用の対処の仕方について工夫すること
3. 仕事や日常生活への影響を理解する
4. 早まって仕事を辞めない
5. 就業規則を確かめる
6. 配慮してほしいことを明確にする
7. 医療者にも仕事内容などを具体的に伝える
8. 利用できる社会資源などの情報を収集する
9. 1人で考えず、誰かに相談してみる
10. 周りの人に上手に甘える

参考: がん治療と就労の両立に向けた現状と課題 ~がん患者・家族・企業の調査から~
国立がん研究センター がん対策情報センター がんサバイバーシップ支援研究部 高橋 都

治療スタッフによる期待されること

1. 患者の就労継続を推奨する
「早まってやめないで」「工夫の余地はいろいろある」
2. 就労の問題は「陰」に隠れていることが多い
医療費の相談→生活問題、働き方の相談
3. 治療や入院のスケジュールを一緒に考える
4. 相談窓口の存在を伝える → がん相談支援センターなど
5. 治療計画や副作用をわかりやすく説明し理解を確認する
6. 勤務先の産業保健スタッフと連携がとれることを伝える

参考: がん治療と就労の両立に向けた現状と課題 ~がん患者・家族・企業の調査から~
国立がん研究センター がん対策情報センター がんサバイバーシップ支援研究部 高橋 都

医療機関における就労支援のまとめ

治療計画・副作用・対処法など正確に伝える

仕事(就労)に関して困っていないかを聞いてみる

相談員に聞いてみる(離職を決める前に相談)

診断時からチーム支援を行い、解決策を一緒に考える

院外関係者との連携を図る(事業者 ハローワーク 社労士 他)

いつでも相談できることを伝える(相談の継続を保障)